

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	海老名市立わかば学園		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	120	(回答者数) 107
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日		～ 2025年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ご家族と子どもにあった支援を考える	・親子登園をお願いしており、通園療育ではフリープレイや報告時等、療育相談では活動中や面談、報告時等に保護者とお話をする機会を設けている。 ・子どもの好きな事や得意な事、苦手な事を一緒に確認したり、家庭での様子等を共有しながら、個別支援計画に盛り込んだり、療育プログラムに取り入れている。	・フリープレイや報告時等に職員と話ができるが、十分に時間がとれない時がある。また「困っている」「相談したい」と感じているタイミングで話ができない時もある為、必要に応じて電話でお話を聞いたり、面談等の機会を設定していきたい。
2	・子ども達が楽しめるプログラムを実施している	・通園療育は複数担任、療育相談は親担当と子ども担当の職員で療育を実施し、一緒に子どもの様子を把握しながら活動プログラムを検討、必要に応じて作成し、運営している。 ・クラスやグループの垣根を越え、職員間で運動プログラムや製作等の案を共有している。 ・個々に合わせて、好きな物や得意な事を取り入れ、楽しんでもり組める様になっている。	・引き続き職員間で療育プログラム案を共有し、マンネリ化せず、子どもに楽しんで貰える活動を実施していく。 ・内外の研修を通して、支援プログラムを学ぶ。 ・アセスメントを行い「できる事」「もう少しでできそうな事」を把握し、どのようなサポート方法が必要なのかを担当職員間で日々検討していく。
3	・活動スペースが十分に確保されている	・市立の会館の3階部分が専用スペースとなっており、療育に使う教室以外に体育室や屋上などを使用することができ、遊びのスペースが十分に確保できている。また、冷暖房が完備されており、季節を問わず快適に過ごせている。 ・活動内容や人数に合わせて活動場所を変えるなど、安全に楽しめるよう工夫しながらスペースを有効活用している。	・床や扉など老朽化が進んでいる箇所もあるため、会館や海老名市と協議しながら、必要な修繕を行えるようにしていく。また、床の素材が硬く、安全のために敷いているマットは汚れやすくスレも生じるため、清掃を徹底することや張り替えについて検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育相談や訓練(通園療育利用の方対象)の回数が少ない	・なるべく多くの希望者を受け入れたいと考えており、そのためお一人当たりの利用回数を制限せざるを得ない状況。 ・お子さんが安心して通所できるよう、担当者を固定させていただいているため、日程の変更等に融通がきかない事もある。	・引き続き海老名市障がい福祉課とも協議しながら、受け入れの方法を変更するなど、必要な支援が提供できるよう調整を図っていく。
2	・保護者同士や地域との交流の場が少ない	・通園療育の利用者に対しては、家族懇親会やクラス懇談会、家族のための勉強室、OB会、季節の行事等で交流する機会が設けられている。 ・療育相談は、グループ療育の利用者は保護者同士の交流があるが、個別療育の利用者はそのような機会はない。	・今後は、療育相談を利用の方も参加できる、わかばサロン(ピアカウンセリング)などを開催し、保護者支援の充実を図る。
3	・各種マニュアル(災害時や緊急時の対応方針、安全対策など)の準備・周知が不十分	・通園療育では、月1回の避難訓練や年1回の引き渡し訓練を実施している。 ・療育相談の利用者へは、契約書や重要事項説明書での説明のみになってしまっている事が多い。	・職員間での周知はできているが、保護者に向けた周知が不十分。また、保護者に周知する際に、どのような方法(手紙・掲示等)を取るか今後検討の必要性がある。